２０２３．１２．１５

「クラウドファースト」への取り組み方針を決定

静岡銀行（頭取 八木 稔）では、第 1 次中期経営計画「Xover～新時代を拓く」の基本戦略「トランスフォーメーション戦略」の一環として、グループの全システムを対象にパブリッククラウド化(※)を最優先に検討する「クラウドファースト」に取り組む方針を決定しました。

今後は、先進的なクラウドテクノロジーを活用しながら、多様化・高度化するお客さまのニーズに一層迅速に対応するとともに、付加価値の高い金融サービスをより安定的に提供できる体制づくりに取り組みます。

※自社独自の環境を作るのではなく、クラウドサービス提供事業者が構築した環境を他の利用者と共同利用するクラウドサービスに移行すること。これにより地理的な多様性が図られるほか、代替可能なリソースを活用することで、事前に備えることが難しいリスクに対する高い復元力を維持することができる

１．「クラウドファースト」決定の背景について

○静岡銀行では、2017 年にオンプレミス（サーバーやネットワーク機器などを自社で保有し運用するシステムの利用形態）をベースとしたプライベートクラウド基盤を構築し、システム開発期間の短縮、ＩＴガバナンス向上、コスト削減に取り組んできました。

○こうしたなか、先進技術の取り込み、オペレーショナルレジリエンス、セキュリティなど、パブリッククラウドの有為性を認識したことで、2022 年度には、情報系システム（データ分析・活用プラットフォーム）をパブリッククラウドに構築しました。

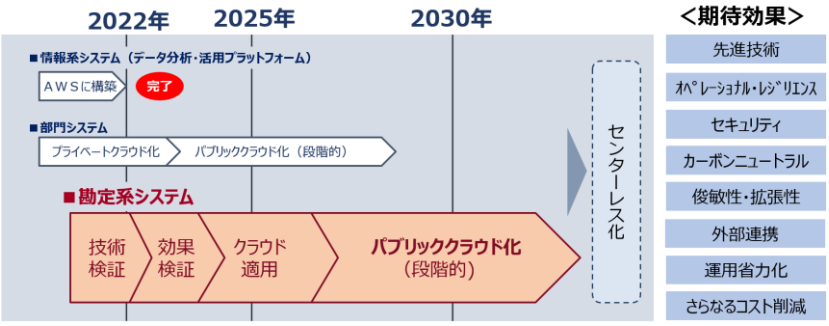
○今後は、技術の進展が進むパブリッククラウドの特性を生かし、パブリッククラウド化による効果を最大限享受すべく、グループが保有する 200 以上のシステムを対象に、原則パブリッククラウドへの移行（構築）を進めます。

２．「勘定系システム」のパブリッククラウド化に向けて

○現行の勘定系システムは、2021 年 1 月に稼働を開始したもので、オープン系技術を採用するとともに、アプリケーション（ソフトウェア）を刷新することで、高い開発生産性とスピード、最新デジタルとの親和性と柔軟性を兼ね備えたシステムです。

○今回のクラウドファースト方針のもと、勘定系システムのパブリッククラウド化についても、日立製作所ならびにアマゾン ウェブ サービスと共同で検証を進めています。

３．今後の取り組み

○クラウドファーストの推進によって業務継続体制を強化することで、自然災害やシステム障害等の発生時にも早期復旧を可能とし、お客さまに安心してご利用いただける金融インフラの構築をめざします。

○また、将来的にデータセンターレスをめざすことで消費電力の削減を図るなど、地域における脱炭素社会の実現にもつなげていく方針です。